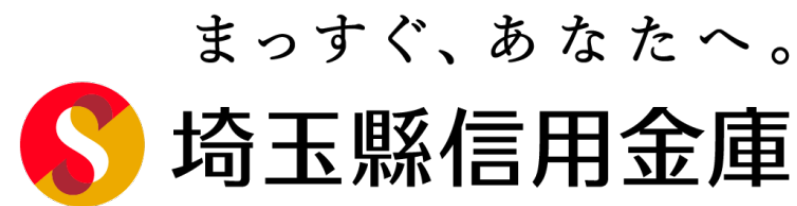


2025年5月14日



ポジティブ・インパクト・ファイナンスの取り組み

埼玉縣信用金庫 地域創生部
事業ソリューショングループ
田口 和彦

埼玉縣信用金庫

- 本部 埼玉県熊谷市久下4-141
- さいたま営業本部 埼玉県さいたま市浦和区常盤5-15-15
- 設立 1948年2月1日
- 役職員数 1,426名
- 店舗
本店・支店 97店舗
(75拠点)
ローンセンター 10カ所
彩りプラザ 8カ所

●預積金 3兆2,261億円

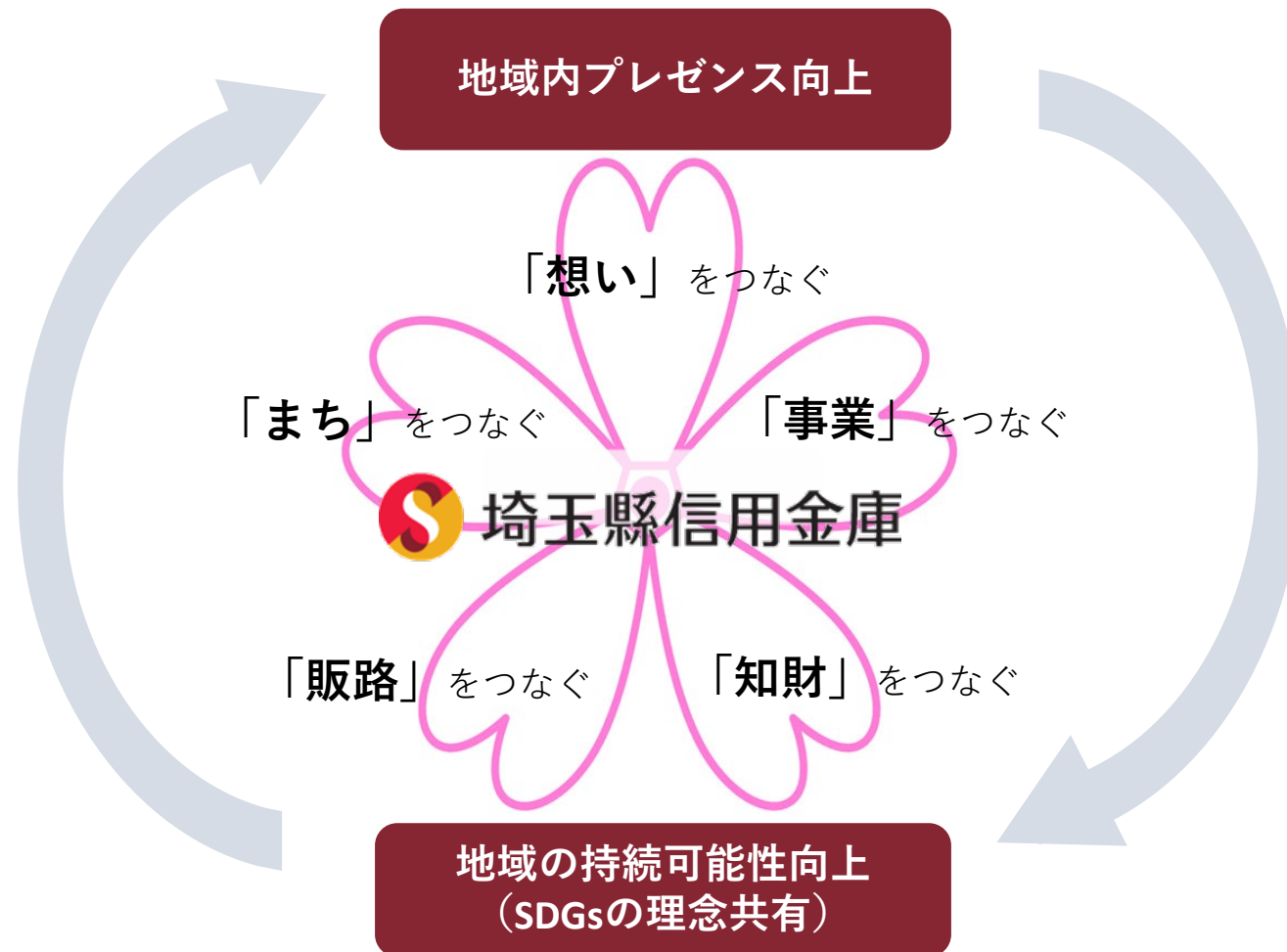
●貸出金 1兆9,178億円

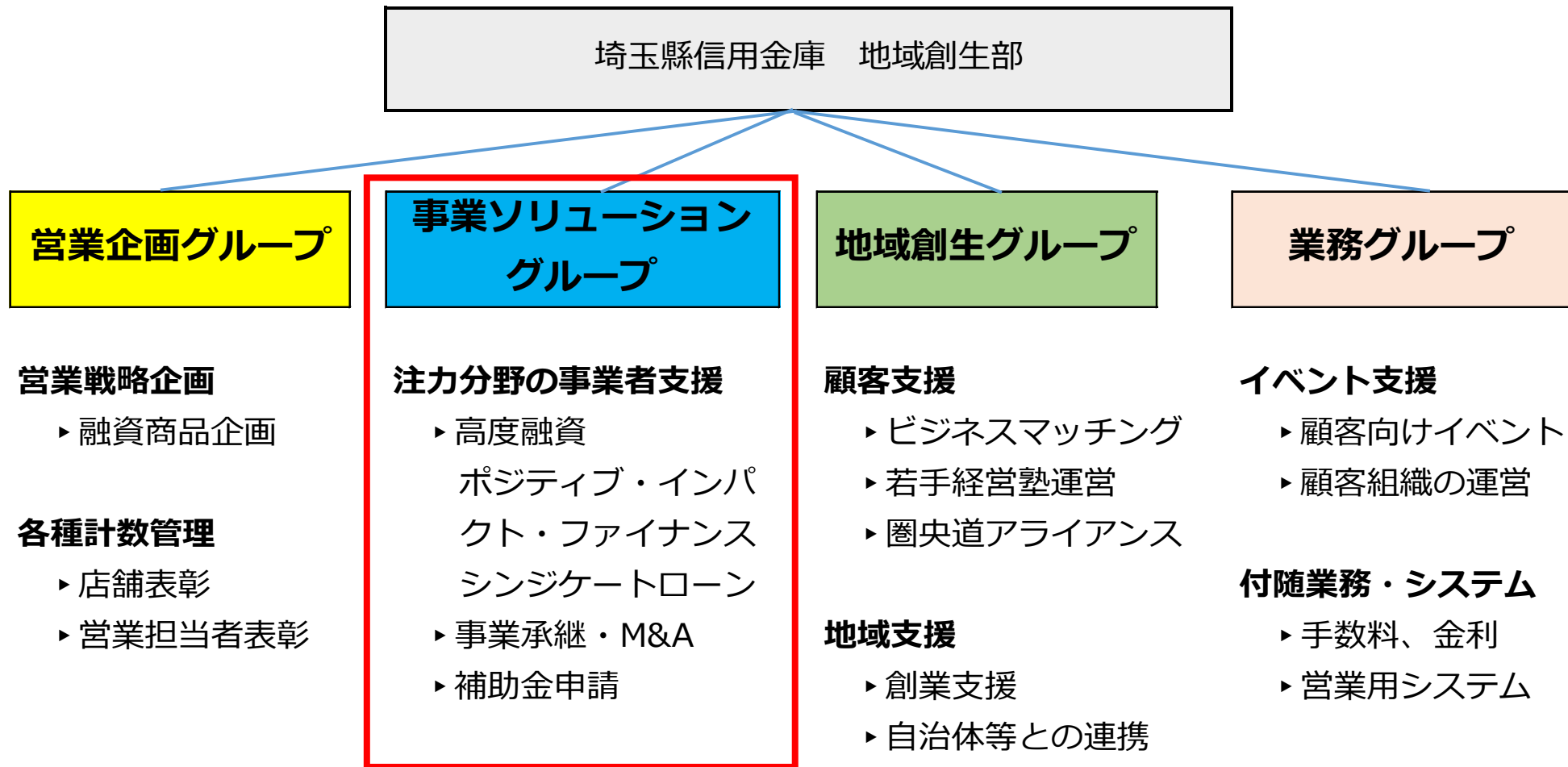


(2025年3月末時点)

中期経営計画（2023～2025年度）～5つのつなぐ～

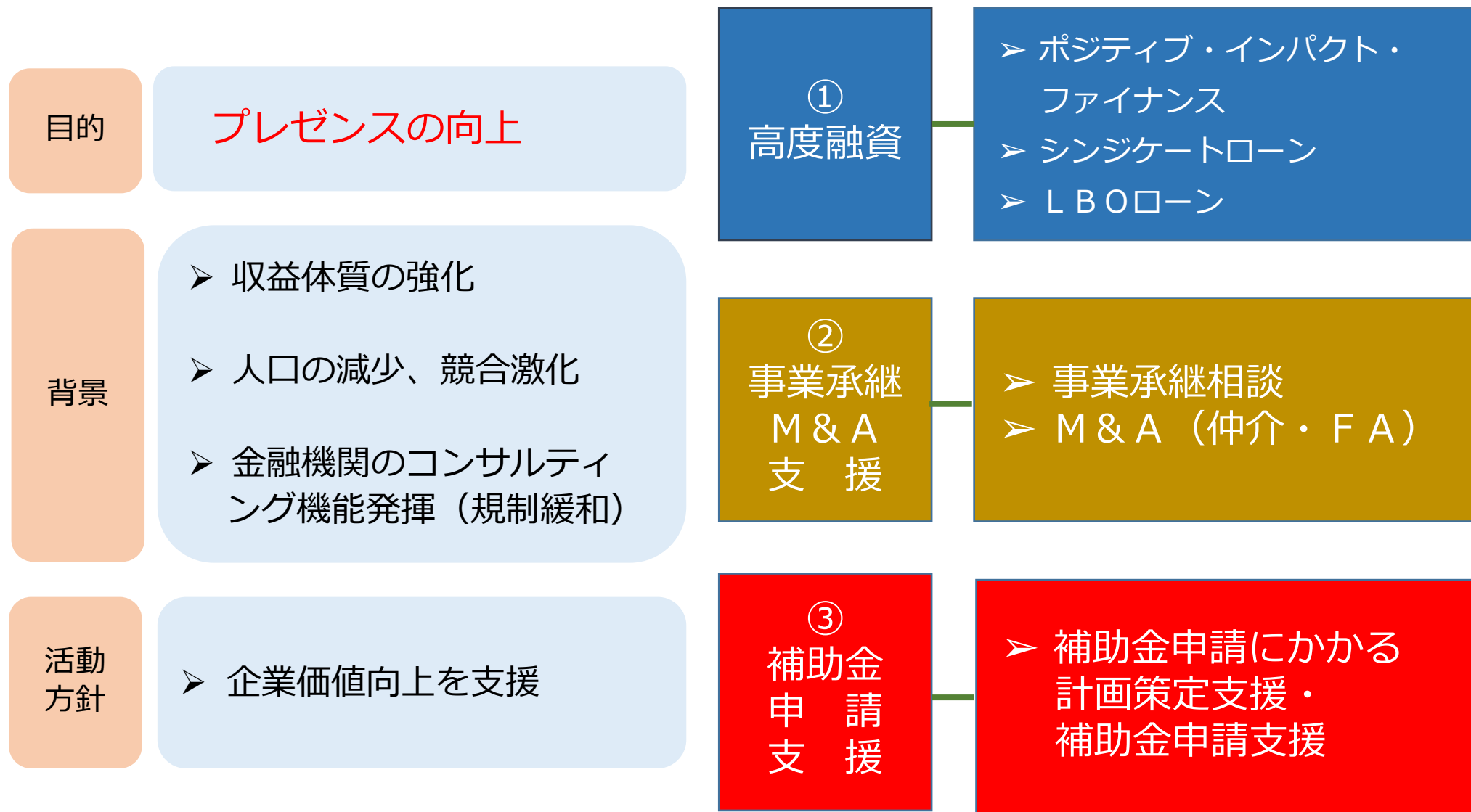
➤ 5つの「つなぐ」により地域の持続可能性を支えていく





▶ 顧客支援は従前事業ソリューショングループの主管業務であったが、組織再編による事業ドメインの変更により2023年4月から現在の業務範囲に変更

事業ソリューショングループの役割 – 2023年4月より新生



ポジティブ・インパクト・ファイナンスを始めた経緯

当金庫

地域の持続可能性向上を支援
(中期経営計画の実践)

SDGsに貢献することは
事業継続に必要不可欠な視点
(ステークホルダー全体に対して)



事業者

SDGsに貢献したいけど…

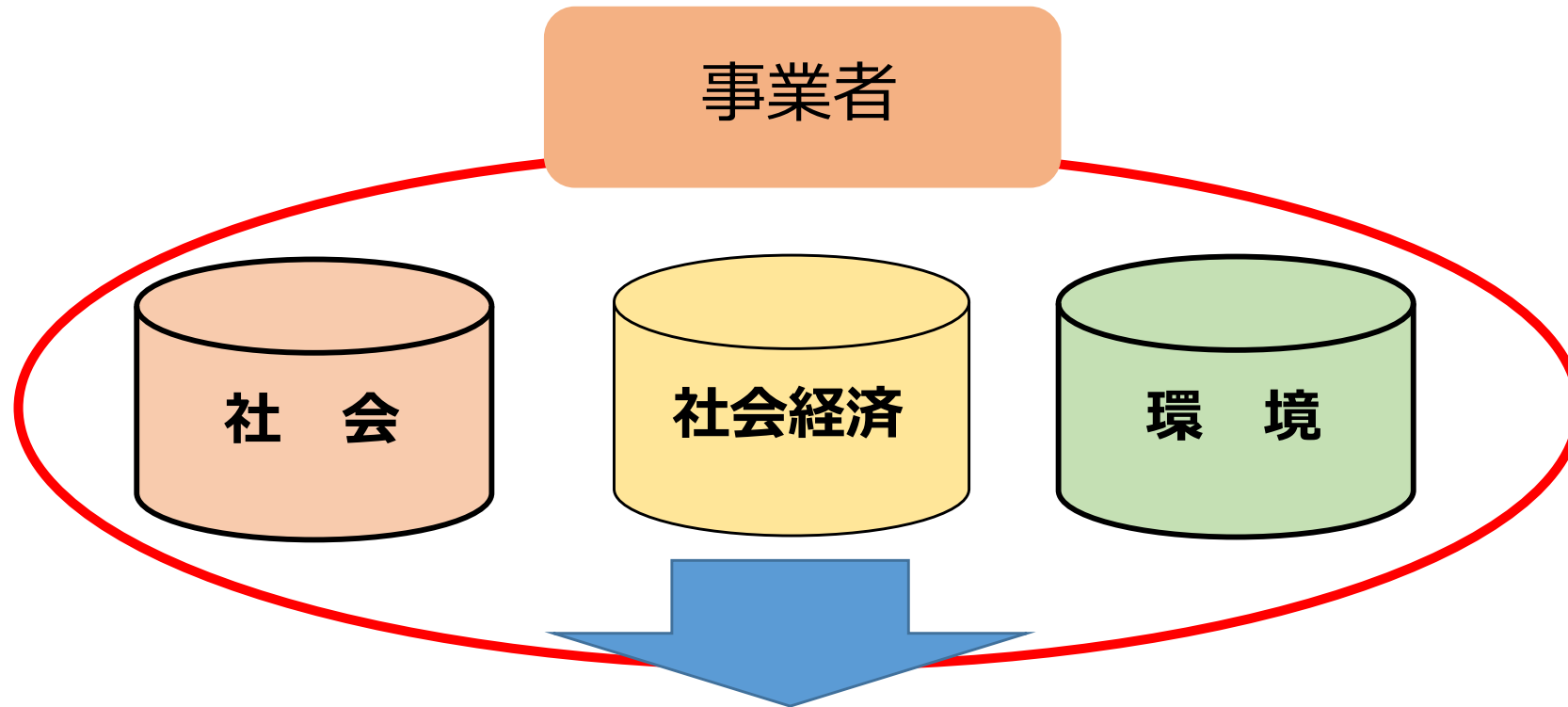
SDGsの取組を社内に浸透させたい

自社の取組を発信したい

ポジティブ・インパクト・ファイナンスとは

- サステナブル・ファイナンスの一類型であり、国連環境計画・金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱する「ポジティブ・インパクト金融原則」に準拠したファイナンス
- 事業活動が、社会・経済・環境の三側面に与える影響を包括的に分析・評価し、将来に向けた施策や目標値も合わせて設定
 - ➡ 「ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書」の作成を通じて事業者の取組を“見える化”
- 作成したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書に対し、株式会社日本格付研究所（JCR）より、「第三者意見書」を取得（金融原則に準拠しているか）
- 評価書の完成及び第三者意見書の取得をもって、当金庫は事業者に融資を実行

ポジティブ・インパクト・ファイナンスの意義



- 社会・経済・環境的効果の実現を企図
- 脱炭素、生物多様性、ダイバーシティ、少子高齢化や地域固有の課題等の幅広い社会・環境問題について分野横断的に活用可能

ポジティブ・インパクト・ファイナンスの事例

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

評価対象企業： 武蔵コーポレーション株式会社



本社：埼玉県さいたま市

武蔵コーポレーション株式会社 様

(当金庫 P I F 第 1 号案件 2024年8月22日)

中古不動産の再生や不動産管理業。

不動産を通じたさらなる企業成長や雇用増加を図るにあたり、SDGs達成に向けた目標の設定や、本ファイナンスを通じた企業価値向上に賛同いただき、本ファイナンスに申込みとなった。

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

評価対象企業：  松坂屋建材株式会社

本社：埼玉県熊谷市

松坂屋建材株式会社 様

(当金庫 P I F 第 1 0 号案件 2025年3月31日)

専門工事・改修工事を主とする建設業。

SDGsを切り口としたSWOT分析として本ファイナンスを申込みとなった。評価にあたっては事業の柱である“改修工事”と、“人材”にフォーカス。SDGs達成に向けた施策や目標を設定した。

ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書の記載事項

1. 評価対象のファイナンスの概要
2. 企業活動・事業活動
 2. 1 基本情報
 2. 2 沿革
 2. 3 **事業活動**
 2. 4 業界動向
3. **サステナビリティ活動**
4. 包括的インパクト分析
5. **本ファイナンスの実行にあたり特定したインパクトと設定したKPI及びSDGsとの関連性**
6. サステナビリティ管理体制
7. モニタリング
8. 総合評価

インパクトの特定（インパクトレーダー）

	インパクトエリア	インパクトトピック		
社会	人格と人の安全保障	紛 争	現代奴隷	児童労働
		データプライバシー	自然災害	
	健康および安全性			
	資源とサービスの 入手可能性、 アクセス可能性、 手ごろさ、品質	水	食 糧	エネルギー
		住 居	健康と衛生	教 育
		移動手段	情 報	コネクティビティ
		文化と伝統	ファイナンス	
	生 計	雇 用	賃 金	社会的保護
	平等と正義	ジェンダー平等	民族・人種平等	年齢差別
		その他の社会的弱者		

「インパクトレーダー」はPIFで確認すべき項目について、社会／社会経済／環境の三分類で示したもの。業種によって特定するエリア／トピックが異なる。

※ 青：ネガティブ・インパクト 黄：ポジティブ・インパクト 緑：両方

インパクトの特定（インパクトレーダー）

社 会 経 済	強固な制度・平和・安定	市民的自由	法の支配	
	健全な経済	セクターの多様性	零細・中小企業の繁栄	
	インフラ			
	経済収束			
環 境	気候の安定性			
	生物多様性と生態系	水 域	大 気	土 壌
		生物種	生息地	
	サーキュラリティ	資源強度	廃棄物	

インパクトエリア／トピックに対し貢献する取組（事例）

< 松坂屋建材株式会社 様 >

取組内容	インパクトエリア／トピック	目標値
改修工事の積極的受注	ポジティブ・インパクト 「資源強度」「廃棄物」	改修工事施工高 40億円 (2030年6月期)
働きやすい職場環境の整備	ネガティブ・インパクト 「健康および安全性」	・ 時間外労働の削減 ・ 労働災害（休業4日以上） 0
CO2排出量の可視化	ネガティブ・インパクト 「気候の安定性」	CO2排出量の可視化および 具体的削減計画の策定・実施

ポジティブ・インパクト・ファイナンスの付加価値

■ SDGs達成に向けた取組をまとめ、社外に公表できる（広報的価値）

- ① 採用や営業の際に、作成した評価書をいわば「SDGsを切り口とした会社案内」として活用できる
- ② 社内に対し、SDGs達成に向けた取組の内容や目標値を書面で発信できる

■ 信用力・企業価値の向上

■ SDGsに貢献する取り組みの明確化

SDGsは幅広であるため何から手をつければよいか分からない場合があるが、SDGs達成に向けたK P I の設定を通じて、目標が明確化
(インパクトレーダーによるインパクトエリア／トピックの特定)

ポジティブ・インパクト・ファイナンスを取り組んでみて

■ 強く感じたこと

▶ **SDGsに興味・関心がある企業は多い**

一方で自社の取組を効果的に示せている企業は少ない

▶ **P I Fを取り組む企業は特に「社会面」に関心が高い**

働き方改革（残業時間削減、有給取得率向上）、社員教育、資格取得支援、資格手当などを社外にアピールしたい

▶ **環境面は道半ば**

社会面に関心が高くある一方、業種にもよるが中小企業ではCO2削減など環境面に対する捉え方はなかなか難しいと感じる企業が多い。当金庫としては、環境面へ良いインパクトを与え、環境に貢献する施策や取組事例の紹介を行う

➡ CO2排出量の算定、ペーパーレス、LED化、社用車EV化 など

ポジティブ・インパクト・ファイナンスを取り組んでみて

■ 難しいと感じること

▶ SDGsに対する意識のずれ

SDGsは幅広いため、事業者がSDGsに貢献する施策を実施しているといっても、特定したインパクトエリア／トピックに関連する施策を実施していないことも多い。企業とディスカッションを重ね、特定したインパクトに合致する施策や目標を設定するところに難しさがある。

■ 取組の効果

▶ 事業者との関係性強化

P I Fを取り組む先は規模が一定以上の企業が多い。このような企業に入り込み、ディスカッションを重ねることで関係性を強化。当金庫は様々な事例等を基に取組を支援するため、事業者側にとって新たな“気付き”を得る契機になる。

協同組織金融機関の強み

■ 事業者 1 社 1 社と顔の見える関係性を構築

社長をはじめとする経営の責任者だけでなく、当該事業者の実務責任者等とも関係性を構築するなど、事業者に深く入り込むことができる。

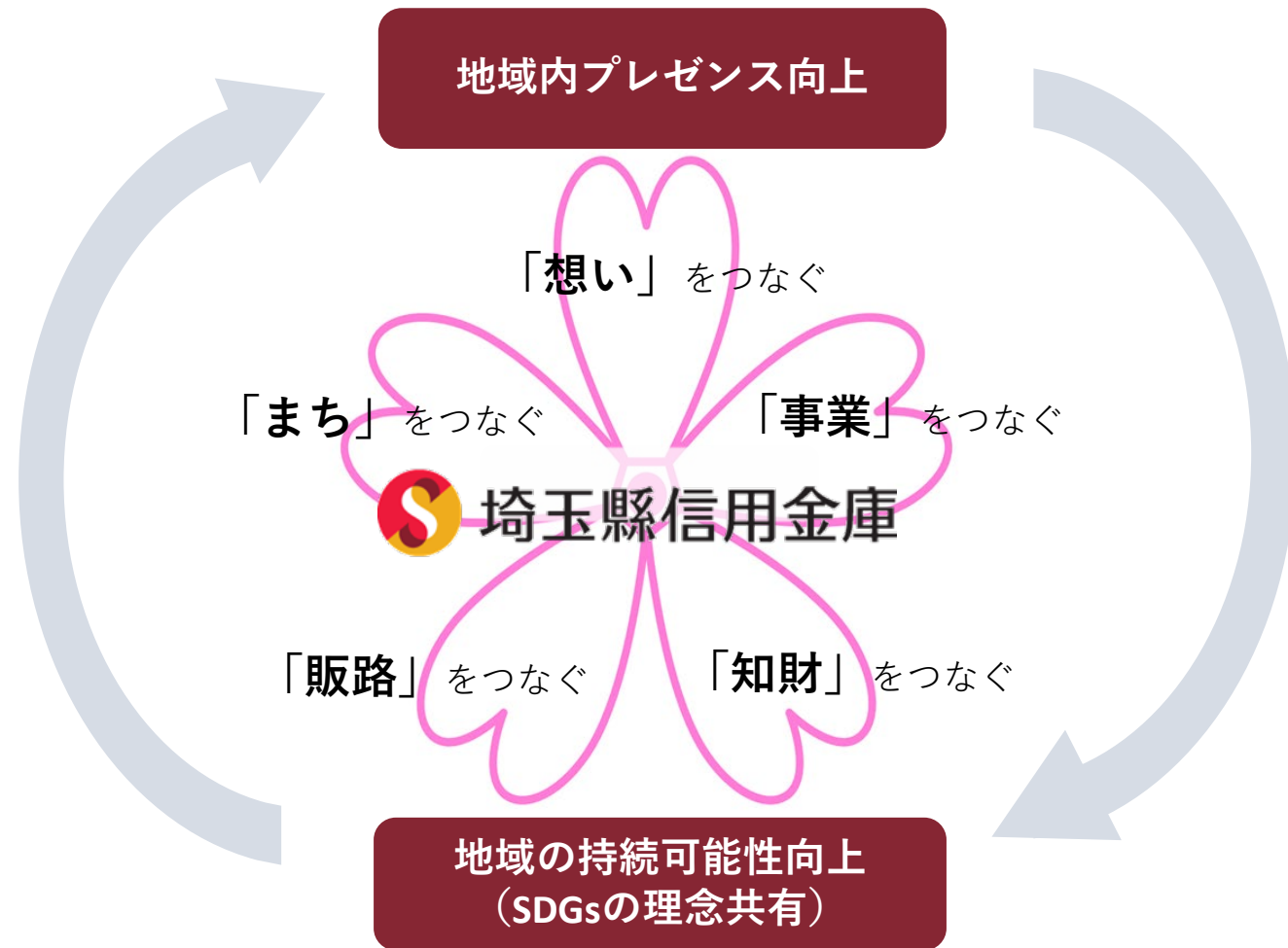
■ 企業価値向上の支援を実践できる

協同組織金融機関は事業者の企業価値向上に貢献できる組織風土がある。また、それを実践している。

■ 組織を超えた連携

信用金庫単独では活動エリアも限られ、面での広がりは限定的であるものの、信用金庫は全国に254あり、同じ“信用金庫”として組織の垣根を超えた連携が可能。

今後の方向性



➤ 引き続き「5つのつなぐ」を実践するため、様々な分野で存在感を発揮

P I Fは事業者や地域社会の持続可能性向上に貢献する取り組みであるが、浸透は道半ば。
今後も積極的に事業者に提案し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

ご清聴ありがとうございました。